



読むに事欠いて、なんか難しい本「日日是日本語」を選んでしまい、コーヒーブレイクを書き上げるのも四苦八苦。ぜひ読んでみてくださいとは言いがたいので、自分が面白かったこと、わかる項目だけを取り上げた。

日本語学者、今野真二の1年間の日記である。身銭を切った古書収集、その膨大な読書量の中で日本語のことを考え続ける。朝日新聞の記事の話には、私もこの記事読んだなと思いついたものがある。気張って読みながら気になったページに片っ端から付箋を貼ったところを羅列していきます。

私のような失聴者は語句の読み方を間違っていることが少なくない。漢字の字面で勝手に思い込んでしまうのだろう。作者は「日々是好日」の読みを「ひびこれこうじつ」と思っていたようだ。私も樹木希林の映画を見るまではそう読んでいた。偉い学者さんでも「ひび…」なので、私がそう読んでいてもおかしくはなかったことでちょっと納得。もっとも、どちらの読みも正しいが、今は「にちにち…」が標準形らしい。この本の「日日是日本語」のルビも「にちにちこれにほんご」となっている。日本語は難しい。

崇める(あがめる)と崇る(たたる)、言葉の意義は全く違うのに、何となく同じ字のように思い込んでいたかも。というより、崇りという漢字が書けません。二つの字はいろんなバリエーションの誤字があるようだ。簡単な漢字が書けない、書けるはずが度忘れして、とっさに出てこなくて恥をかく。パソコンでパコパコ入力しているより、手書きしたほうがよっぽど勉強になる。日本語は難しい。

将棋の羽生(はぶ)善治とスケートの羽生(はにゅう)結弦、姓は同じ漢字だが読みが違ふのは周知のとおり。ハニフ=埴生→はにゅう、ハニフ=波牟布→ハムフ→ハンフ→ハブと説明されている。日本語は難しい。

技術は言語化しなければならない。私は水彩画を習っているが、上手く描けたときと下手っぴの当たり外れが大きく、出来栄えに落差があり過ぎて、自分ではまぐれで描けたとしか思えない。そこで水彩の先生は微に入り細に渡って言葉で説明してくれる。描き方を理論で教えてくれるのがすごいなあと思う。まあ、理論がわかったからと言って、サラサラすんなりとやれないのはアートもスポーツも同じだ。地道に練習あるのみ。

1958年生まれの作者でも「LINEを使っていると、若い世代の人に、えらいですねと言われる。LINEが使えるくらいで誉められてもうれしくないぞ」と言っている。ここ1、2年で高齢者のスマホ普及が急速に進んだ感がある。誰かに設定さえしてもらったら、LINEなんて誰でも使えるやん！と私でも思う。パソコン触ったことない若者より自分のほうがマシ！と密かに自負してみる(笑)

スポーツ面などで「サクラジャパン」「侍ジャパン」「レジェンド」「神対応」などのネーミングが気になる。マスメディアもそれを煽っているような気もする。おおざっぱで一見わかりやすい言葉は、結局は「一億火の玉」みたいなひとつの思考に流れていかないと限らない。法律違反の行為を「ヤンチャ」の言葉に言い換えられるとその行為が曖昧になると言う。「粗い表現は粗い思想しか伝えられない」インターネットの投稿には、自分は正義の味方みたいなコメントが多く、主流の考え方から外れるとたちまち叩かれる。

コーヒーブレイク 67「ケンボー先生と山田先生」の国語学者の山田忠雄さんは作者の叔父さんに当たる。この本を読んでいる途中で気付いた私ってえらい(笑)。昔、大好きだった北杜夫の自筆原稿コピーなどを購入のくだりが少しうれしい。「思考は書かなければ記憶されない、展開しない」ボケ防止のためのブログや、このような原稿を書いている私だが、できるだけ正しい日本語で自分の思いを書き留めなきゃと感じたことです。

『日日是日本語』 今野真二 岩波書店